

## 気管支拡張症の熱 清肺湯などが効果

**Q** 六十歳、女性。数年前かぜの後、痰（たん）と咳がなかなかおさまらず、いったんは抗生物質で治ったのですが、昨年から血痰と膿（うみ）のような痰が出るようになり、痰が粘って出にくく、ひどく咳込むようになりました。気管支拡張症とのこと。いつも抗生物質を服用しているので胃腸の調子もよくありません。

**A** 気管支拡張症はさまざまな原因で気管支炎を繰り返し、気管支が拡張して粘膜に細菌感染を起こしやすくなり、血痰や咳込みの出る病気である。漢方では肺に熱のある状態ととらえ、肺熱をさます意味の清肺湯（せいはいとう）がまず試みられる。血痰がでる時は清肺湯の構成

生薬から五味子（ごみし）・杏仁（きょうにん）・貝母（ばいも）などを抜き、芍薬（しゃくやく）・地黄（じおう）・紫苑（しおん）・竹筴（ちくじょ）・阿膠（あきょう）といった止血作用のある生薬を加える。これを紅痰加減方（こうたんかげんほう）と呼ぶ。

清肺湯は血痰や膿性の痰を減らし、抗菌作用があるので、抗生物質の減量・廃薬が期待できる。また、胃腸への負担が少なく長期使用に適している。副作用の心配は極めて少ない。

その他、桔梗湯（ききょうとう）、排膿散（はいのうさん）などに排膿・抗炎症作用があるので用いられる。特にのどの痛みや声のかすれ、痰に血がまじるといふ症状には百合固金湯（ひやくごうこきんとう）なども使われる。